

## 第5回奈良市子ども条例検討委員会の概要

開催日時	平成24年9月5日（水）午後2時半から午後4時半まで
開催場所	奈良市役所中央棟5階キャンベラの間
議 題	1 ワークショップについて（中間報告） 2 出前実態調査方法について（実施報告） 3 アンケート調査実施について 4 その他
出席者	出席委員6人・事務局17人
開催形態	公開（傍聴人0人）
決定事項	ワークショップの発表の場を公開型で設ける。
担当課	子ども未来部子ども政策課
<b>議事の内容</b>	
1	<p>ワークショップについて（中間報告）</p> <p>事務局よりワークショップの内容について中間報告を行い、意見を求めた。</p> <p>ワークショップの報告が個別の意見を徴収したものであることについて、委員から今後、ワークショップが全体で意見をまとめていくプロセスになっているのか気になるという意見があった。</p> <p>それに対して事務局は、5、6回目で総括を行い、それを行政なり、委員会に発表する形であると回答した。</p> <p>委員から、テーマごとにグループを作って、そこでさらに意見を深めていくようなことはこの先するのかという意見があり、それに対して事務局は今のところテーマごとでの意見交換をする予定はないが、今後、発表や提言をして、再度ワークショップを持つかどうかは検討していくと回答した。</p> <p>委員から、これまでのワークショップの中からは、子どもたちがどれを重要と思っているかのアウトプットが見えず、どう条例に結び付けていくか難しいので、今後はそれを加味してやってほしいという意見があった。</p> <p>事務局からのワークショップの後に子どもたちの発表の場を設けたいとの提案に対して、委員から、条例を作っていくプロセスとしても重要であり、市長も出て、市民に公開の上、行うべきという意見が出た。</p> <p>また、日程について、12月15日もしくは16日で、日程調整することとなった。</p>
2	<p>出前実態調査の実施について</p> <p>事務局より出前実態調査について報告し、意見を求めた。</p> <p>委員から、今回語ってくれたことを何とか条例に盛り込みたいという意見が出た。</p> <p>また、調査から大変な子どもは、親も大変であるという関わりがあり、子どもにとっての条例ではあるが、親も援助する形にしないと子どもの現状はよく</p>

ならないという意見が出た。

奈良県は非常に教育熱心な地域であり、その競争から脱落した子どもや家庭にとっては暮らしにくいという意見が出た。また社会養護のサービスや施設が奈良市にはなく、中核市であるべきところが外部サービスや資源に依存しているという意見が出た。さらにNPO活動のネットワークや参入という部分が少し弱いという意見が出た。

子どもの現状や親子関係が変化してきて、新たな取り組みが必要となった場合に、条例の中で子どもや若者の課題をモニタリングしたり、評価検証したり、制度改善できるような仕組みを作ることが重要という意見が出た。

委員から、ヒアリングの内容を条例に反映させていく際に、施設やハード面の整備を含めると具体性がありすぎるものになるので、最終的なまとめが必要という意見が出た。

それに対して、条例の中には、全ての子どもに生活保全やその地域で生きていく、社会の中でのレベルを保障するというような基本的精神を入れればよいという意見が出た。

これらを条例の文言に落とししていくときに、条例の宣言の内容として生かす部分とシステムとして生かす部分、具体的に計画に落とししていく部分に分けるしかないという意見が出た。

ヒアリングから非行と発達障がいとの関係が見えてきているので、そのあたりをもう少し聞きたいという意見が出た。

### 3 アンケート調査について

事務局よりアンケート調査（案）について説明し、意見を求めた。

委員からアンケートで子ども観を浮き彫りにすることは難しいが、東日本大震災で大人が子どもの力を見直したという事例があり、子ども観を変えるきっかけになった。これは震災があったからではなく、もともと力を持っているがそれを発揮できる機会がないだけという意見があった。

これについて、ワークショップがそのモデルケースで、それを見てもらうことで、子どもらには力があるということを示すことになるという意見が出た。

また12月に予定するワークショップの成果発表によって、市民の価値観が変わるという意見が出た。

奈良市では、教育のレベルが高すぎて、それが息苦しさにつながっているということや、地域行事への参加が少なく、大人が関わらなければ、子どもも関わらないというような仮説を持って攻めればどうかという意見が出た。

これに対して、社会参加の部分、教育熱心であることのプラスマイナス、行事参加やコミュニティ意識も含めた問題の地域格差などを盛り込んでいくこととなった。

事務局から教育委員会の調査報告を受け、委員から、奈良市は学習熱心で、与えられたことをやるのは非常に長けていて、授業も聞いてといった能力は高

いが、主体的に関わっていくというのは、地域行事や社会への関心も薄く、勉強を一生懸命やればよいという感じの世界観が大人から子どもに与えられている感じがするという意見があった。しかしながら希望が持てる項目もあるので、いろいろな生きていく方向を見せていけば、頑張っていける子どもが出てくる可能性もあるという意見があった。

またヒアリングで子どもらが奈良はゆっくりしすぎていると否定的にとらえていることについて、大人も否定的にとらえているのか気になるという意見が出た。そして、地域でゆったりと子どもらを育てていくという、学習塾の状況と違う価値観を、もっとプラスに展開して、行事などを大人自身が楽しんでいくということがあれば、奈良らしさというところで、子どもらがゆっくりとした時間の中で、ゆっくり考えて、自分の生き方を考えていくものになるのではないかという意見が出た。

多様な価値観をアンケートで聞いたほうがよいか、それとも提言として盛り込むべきか、また、時間の意識についても同様にアンケートか提言かという意見に対して、別の委員からワークショップで聞くことは可能かという意見が出たが、それはファシリテーターに確認しなければならないと事務局は回答した。

アンケート項目について、勉強への取組や地域との関わりというかたちで、社会参加意識を聞くか、自己決定や他者との関わり具合を聞いたほうがいいのかという意見に対して、すでに調査で聞いた項目については、改めて聞く必要はなく、悩み事の相談先や自己決定、地域のことを特化して聞いたほうがいいのかという意見が出た。

また、いじめの項目については、9月に実施する調査と項目が重複しないようにすることとなった。

既存調査から見えてくることが結構あるので、アンケート項目は子ども観や大人と子どもの意識のギャップ、社会や参加への参加意識を聞く項目を入れるという意見が出た。

仮説を立て、子どもの家族や地域でのコミュニケーションと自律性の関係を保護者のその傾向と比べれば、考える材料になるのではないかという意見が出た。しかし、一般の大人が子どもと同じ質問に対して、どう思っているか、そのギャップを見たほうが良いという意見があり、どういう聞き方にするかは、再度、委員と事務局で詰めることとなった。